

## 本校の新世纪と東京九学会

東京九学会 会長 連川 悠一

今、この稿を3月11日にしたためています。一年前の今日、東日本大震災が起きたことは、会員各位に於かれましても、まだ記憶に新しい事と思います。

11日現在、死者・行方不明者、約2万人、避難者、約34万4千人、そして、津波の爪痕である瓦礫処理は7%弱しか済んでいない現状、完全復興には程遠いものがあります。

とまれ、昨年2011年は我々の東京九学会にとっても、いろんなことが沢山ありました。

100周年記念に関わる東京九学会よりのモニュメント贈呈の検討、7月の定期総会の開催、神奈川支部の総会、KG会の総会等々、そして最大の行事が11月18日に開催された本校100周年記念式典でした。県立劇場における式典と記念講演会には在校生を含め1800人が参加、ホテル・キャッスルでの祝賀会には600人超の人々が集まり、盛大な祝賀モードでした。前日、17日のブラウン・チャペルにて挙行された記念礼拝を含め東京九学会の会員の方々の参加は25名を超えていました。

そして、東京九学会から贈呈されましたモニュメントに対し、感謝状を戴きました。

亦、モニュメントはチャペルと記念体育館の間に設置されていることを報告します。

本校を訪れる機会がありましたら、是非、ご覧頂きたいと思います。そして、2011年の締めは、12月25日京都・都大路の全国高校駅伝での3位という輝かしい成績を残した後輩たちを誇らしく思われた方々も多かったことでしょう。

さて、我らの母校九州学院は1世紀を過ぎ、新たな世紀にどのように向かってゆくのでしょうか。九学通信のなかで、内村院長は「次の百周年に向かって」のなかで、これまでの教育方針を今までの踏襲ではなく、建学の精神にしっかりと立った上での「仕切り直し」の覚悟が必要なのかも知れないと述べています。どの様な方針となるかは浅学の身では解りませんが、卒業生としては「敬天愛人」の校訓の基に益々の発展と後輩たちの活躍を祈るばかりです。

その後輩たちが、2012年の幕開に、春の選抜高校野球に2年連続5回目の出場が決まったことから始まりました。応援に行かれる人も多いでしょう。活躍を期待します。

東京九学会も母校を応援する気持ちは変わりませんが、新世纪に向かってリニューアルすべく、2月7日の幹事会で、今年は役員改選年度につき、次世代の方々にバトンタッチすべく提案が行われ、了承されました。詳しくは、これから詰めてゆきますが、会員の皆様のご協力を切望します。

宜しく、お願い致します。



創立100周年記念祝賀会にて 2011, 11, 18

# 「古くて新しい九州学院の創造」

九州学院院长 内村 公春

「神よ、  
 変えることのできるものについて、  
 それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。  
 変えることのできないものについては、  
 それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。  
 そして、  
 変えることのできるものと、  
 変えることのできないものとを、  
 識別する知恵を与えたまえ。」

ラインホルト・ニーバー (大木英夫 訳)

改めて九州学院創立百周年諸事業へのご協力、そしてご支援有り難うございました。神さまの御護りの中で、中心的行事である昨年 11 月の記念礼拝そして記念式典及び記念講演、また記念祝賀会を無事に終了することができ、後の記念誌の編纂は残っているものの、どうにか区切りをつけることができました。そしていよいよ気持ち新たに次の百周年への歩みがスタートしました。

歩みを始めるに当たって、私の頭に浮かんだのが表題の有名な詩です。よく「不易と流行」という言葉で言い表されますが、これからの学校の教育のあり方として考えておかねばならないのが、変えてはいけないものと時代の変化に合わせて変えて行かねばならないものをしっかりと位置づけておくことです。前者は勿論、九州学院の原点である校訓の「敬天愛人」や教育目標である「自分で自分を監督し、役に立つ善人になれ」という聖書の教えに立った建学の精神です。そして後者は、具体的教育内容を時代に合わせてアレンジしていくことです。でも、これは、口で言うほど簡単なことではありません。時代の風を予測していくことは、そうできることではありませんから。

まず早急にやらなければならないこと、それは建学の精神と具体的教育内容とのギャップを埋めることです。現在の九州学院で行われている教育が、キリスト教に基づいた全人教育として展開されているか。



2011年秋 KG 会においでくださった  
 内村院長

一人ひとりの生徒を大事にする教育をやっているか、そのことを点検し、改善していかなければなりません。まして毎年、3分の1の生徒が入れ替わっていくわけですから。さらに看板倒れになっていないか。世間の評価と内部の取り組みの齟齬にも、注意を払わなければなりません。

そしてもう1つが、  
 今までの九学に足ら

なかったものを、時代の流れに合わせて変えていくことです。それは、九学がどうしても文系に重点を置く学校であったことからの脱却です。入学する生徒の中には、理系志望の生徒ももちろんいます。そして現在でも当然ながら、そういう理系学部へ進学する生徒はいるのですが、教育カリキュラム上、そういう生徒に不親切な内容となっていたことは否めません。その結果、九学の校風は好きなのだが、理系になかなか進学出来にくい学校ということで敬遠されてしまうことがありました。そこを変えることが、新しい取り組みの1つです。文科省の教育課程の変更が、2013(平成25)年度から実施されます。これが大きなチャンスです。ここで理系志望の生徒にも親切な教育カリキュラムを編成したいと思っています。もちろん、今までの文系のカリキュラムも充実させていく予定です。

このような取り組みに欠かせないもの、それが実際教育を担当する教職員です。幸いなことに、現在の九学が、その教育や校風を評価されている理由に、熱心な教職員の存在があります。例えば部活動が素晴らしい成果を上げている理由には、頭が下がるほど指導に熱心に取り組んでいる指導者の存在があります。さらに部長・監督は、ほとんど学内教職員が担当しており、決して勝利至上主義ではなく、人格教育を



学院のモニュメント その3

## 「復活」

高濱英俊氏 S28 作

寄贈 東京九学会

九州学院同窓会 参与

小崎義昭 (S4)

東京九学会

会長 連川 悠一

(S11)

根底においた指導をしてもらっているのです。ここに九学の強さを見ることができると思っています。

さてこうした素晴らしい指導者である先生方も、いつかは交代していくことになります。つまり後継者の育成も大事なことになります。

以上、今後の九州学院のミッション、ビジョン、戦略等を述べてきましたが、一番大事なものは、より強固な教職員集団の育成ということです。そのためにも教職員の研修や相互指導体制は重要になってきます。きちんとした研修計画、また相互指導体制の確立などを通し、より充実した育成プログラムを組みたいと考えています。

最後になりますが、いよいよ春のセンバツ甲子園大会が近づいてきました。野球部も駅伝に負けられないような成績を上げたいと意気込んでおります。どうか、ご支援を宜しくお願いいたします。

今後も神さまのお支えのもと、東京九学会の皆さまにも、もっともっと九州学院を応援したいと思っただけの学校作りに努力したいと思います。

東京九学会のますますのご活躍をお祈りしております。



2012年春甲子園へ

## 100周年記念事業に参加して

編集部まとめ

昨秋11月、母校創立100周年記念行事に東京九学会から23名(祝賀会出席)が帰熊して参加しました。

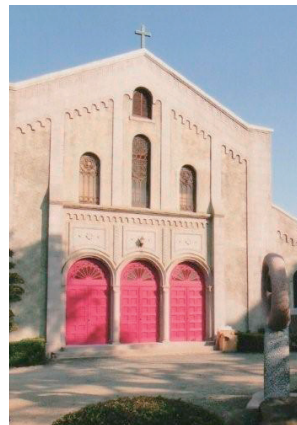


一粒の麦・・・地に落ちて百倍の実を結ぶ

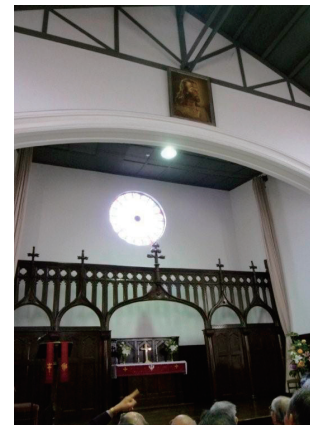
17日午後、記念アーチで飾られた正門を潜りました。我々は夫々、何年か昔、この校庭に播かれた一粒の麦でした。今、記念すべき日、ここに立てることに感謝。

一粒の麦・・・地に落ちて百倍の実を結ぶ

4時からブラウン記念チャペル(講堂)で記念礼拝。



懐かしの講堂



校庭より

## 祝 九州学院創立100周年

東京九学会  
顧問 **森田 茂 (S4)**

〒332-0017 川口市栄町2-1-18-801  
TEL:048-250-6021 Fax:048-256-2878

東京海上日動火災保険(株)代理店  
有限会社 **オーナーズプランニング**

不動産  
有限会社 **オカジマ**

熊本市帯山4-14-2  
Tel 096-383-5551

代表取締役 **岡嶋 勇治 (S14)**

聖歌隊の合唱、讃美歌、聖書朗読、説教は内海望先生「まなごしを高くあげて」。しばし、世俗を離れ、母校礼拝堂で感謝の祈り。ブラスバンドが高らかに演奏する「ちからなる神はわが強きやぐら」に感激。

翌 18 日 9 時 30 分熊本県立劇場コンサートホールにて記念式典。みどり幼稚園児による校歌で始まり、聖書の言葉、讃美歌「あめつちこぞりて・・・」「いつくしみ深き友なるイエスは・・・」(これは誰でも覚えています)

満堂 1800 人による校歌斉唱は圧巻でした。生徒誓いの言葉は、流石我等が後輩、中学、高校とも立派。

記念講演 鎌田 實氏「困難な時代をどう生きるかー希望をもって生きるー」では、“相手の立場に立って考える”“徹底的に暖かいということが大切”“何であれ、与えられた仕事で日本一になろうとした”という言葉が



♪ 青蕪に歴史の跡残す

心に残ります。同窓生は結構な祝弁当を頂きました。

午後九州学院へ移動。同窓会参与 小崎義昭先生にご案内を頂き、100 周年記念事業で整備された校内を見学しました。東京九学会贈呈のモニュメント「復活」はチャペル真近か、新築完成した記念体育館前



贈呈モニュメント 「復活」

に建てられており、有難いポジショニングです。

記念体育館（前頁右下写真正面）内部も誠に立派。こらたまガッタ!嬉しい驚きでした。九学 100 年の歴史が凝縮された歴史資料館。

新しい発見、話に



まーだ負けんぞ @記念体育館

は聞いていて、“あっこれか”と感じ入るもの沢山ありました。

旧本館階段に使われていた板を久しかぶりに踏みました。

夜は、熊本キャッスル二階キャッスルホールにて記念祝賀会。各界からの心のこもった祝辞、現役合唱部による歌、チアダンス部による演技等、古く新しい九州学院に相応しい、明るく、楽しく、意義ある祝賀会でした。席上 連川会長が東京九学会を代表し、モニュメント寄贈に対する学院からの感謝状贈呈を受けられました。



チアダンス部の演技

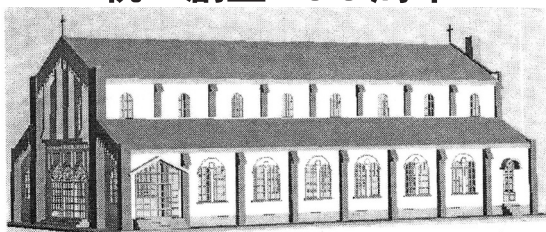
学院の公式記念行事参加後、東京九学会メンバーは、夫々の、同級生、クラブ活動先輩・後輩と交歓を楽しんで、九州学院に学んだ幸せを感じ、その新たな世紀に於ける発展を祈りつつ東京へ戻りました。

### グローバルズムについて思うこと

S54 マット バーゼンス\*

先日、銀座で新しくオープンした UNIQLO でも 6ヶ国語で対応できるようになっています。そして、

## 祝 創立100周年



旭光(有) 緒方 榮喜 (J6.S8)

寿司・季節料理・くまもと料理

あ づ ま

吉村 勉 (S9)

〒100-0005 千代田区丸の内3-4-1 (新国際ビルB1) TEL 03-3213-2728

私が担当している羊肉の輸入にもグローバルズムに驚くほど左右されています。

例えば、日本と全く関係のない中近東で行われるイ



スラム教の祭りが日本の羊肉価格に影響を与えます。その祭りのために、中近東での羊肉需要が強くなり、高値でオーストラリアとニュージーランドから買います。そして日本が買おうとすると、中近東と同じようなレベルで買わないと現地が売ってくれません。さらに、グローバルビジネスは殆ど米ドルで行われているため、その日の為替 - JPY 対 USD、AUD 対 USD など、そしてそれぞれの国の経済状況によって日々の価格が変わります。もちろん、このようなやり取りが出来るのに英語と日本語が必要です。

私の経験では、日本人は「英語が話せない」と言うのですが、意外と出来ています。文書にすれば多くの日本人が自分の思っている事を問題なく書けるのに、その文書を口にしようとする時話せなくなります。つまり、自信の問題です。ネイティブジャパニーズではない自分も最初日本語で話すことが恥ずかしかったですが、「間違ってもいい、自分の思いを通じればいい」というアイデアを理解したら私の日本語力が一気にアップしました。発音とか、文法とかはもちろん大事ですが、気にしなくても大丈夫です。隣に座っている会社の先輩がカタカナのままペラペラ電話で海外の方と話しています。しかも、通じています!外国人の目から見ると、一生懸命英語で話してくれることがありがたいです。頑張ろうとしているあなたを見て、分かりやすいスピードで話し、分かりやすい単語を使っ

てくれるはずですよ。

しかし、英語が本当にダメ、頑張っても出来ないという人はもちろんいます。どうしても英語が苦手という方はご心配なく!日本語を一生懸命勉強している外国人がたくさんいます。そして、日本で働こうとしている外国人が年々増えています。今、勤めている会社では、私が初の欧米人正社員ですが、今年の4月から外国人の正社員が何人も入社するそうです。日本の病院でもフィリピン人の看護師さんを受け入れたという話を聞いたことがあります。やはり日本が徐々にオープンになっています。逆に、オープンにならないと少子化している日本の将来が危ないと思います。色んな国の人の知識、考え方、そして経済力を借りれば、日本がよい意味で変わります。少子化防止はもちろん、年金問題(私も払っています)、そして経済発展は外国人の力で解決できると思います。自分のためだけではなく、日本のためにも頑張りたいと思います!ということで、日本在住の外国人をこれからもよろしくお願ひします!

\*オーストラリア インマヌエル・カレッジからの交換留学生として来日、九州学院を経て国際基督教大学卒業 現在日本の会社の海外事業部で活躍中

## 家庭科で育てたい力

S51 石原 愛子

家庭科の教員として都内の小学校と高校で教えています。子どもの頃から先生という職業に憧れはありました。でも「なぜ家庭科を選んだの?」と聞かれると、ちょっと困ってしまいます。「神様に導かれて…」と答えるしかありません。

私はもともと裁縫が得意だとか、料理が好き、というわけではありませんでした。母が専業主婦だったので家事をする必要がなかったし、「バレンタインにチョコレートケーキを焼いてみよう」というような女の子っぽい感覚も持っていなかったの(ちなみに今でも「男らしい!」とか「がさつだ!」とかよく言われます。)大学生になって1人暮らしをするまで、家事の経験は皆無といってもいいほどでした。



多摩八十八ヶ所第一番札所  
真言宗豊山派  
安養寺

住職 島本誠永 (S30)

〒180-0002

東京都武蔵野市吉祥寺東町1-1-21

九學東京若手の会

KG会

URL : <http://www.kg-kai.jp/>

九學東京若手の会 KG会 代表 島本 誠(S30) 事務局 高森(S32)/岡本(S34)

〒168-0062 東京都杉並区方南1-8-17 株式会社オカモト印刷内  
TEL : 090-5792-0100 E-mail : s32takamori@kg-kai.jp

メール用QRコード  
連絡はこちらから



進学した大学の学部で取得できる教員免許がたまたま家庭科だったので、軽い気持ちで取得を目指しました。



ところが大学での講義・実習で、家庭科の奥深さに驚き、いざ現場に立ってみると、今の子どもたちに本当に必要な科目であることがはっきりわかってきました。

「現代の子どもたちは生活経験に乏しい」と指摘されて久しいですが、実際のところ現場でもひしひしと感じます。高校生にりんごの皮むきの宿題を出すと「生まれて初めて自分でりんごを剥きました」と感想を書く生徒がいます。調理実習で和食の一汁三菜を調理し、配膳させると、ご飯を右、汁物を左に並べてしまう生徒がいます。

「りんごが剥けなくとも生きていける」「ご飯と汁物が逆に並んでいても構わないじゃないか」という人もいます。でも、りんごの剥けない手先は、他のことをさせても例外なく不器用です。ご飯が左、汁が右という配膳は、平安時代から続いている合理的で美しい日本文化なのに、私たちの時代で簡単に廃れさせてもよいものでしょうか。家庭科に対しては「家庭でできることをなぜ学校で教えるのか?」という意見もありますが、現場で生徒を見てみると、「家庭でできている」とはとても言えなくなってきたのが今の子どもたちの実態だと感じます。

また今の子どもたちは便利な世の中に生きて、自由を謳歌していると思われがちですが、本当にそうだろうか…と考えてしまいます。例えばプリンが食べたい時、

卵と砂糖と牛乳、鍋とカップ（湯のみなどでも OK）があれば、家で簡単に作ることができます。しかし子どもたちはプリンが作れるということを知らないので、すぐにコンビニで買ってきます。「買う」という選択肢を強制的に選ばされているのです。これでは自由な選択をしているとは言えないのではないでしょうか。もちろん、コンビニで買うことが悪いわけではありません。「作れるけど、今日は買おう」という選択と、「作れないから買うしかない」という選択では、意味が違うと思うのです。

翻って、大人にも同じことが起こっているのでは…とも感じます。「何かを手に入れるためには、作れないから買うしかない→お金が必要→働く→忙しくて時間がないから作れない→買うしかない（ふりだしに戻る）」という負のスパイラルに陥ってはいないでしょうか。

人間の一生を樹木だとするなら、生活は幹の部分に例えられます。幹がしっかりしていれば、いずれは葉が茂り、花も咲き、実をつけることができます。子どもたちが人生の中で、素晴らしい花や実を結べますように…と願いつつ、私は家庭科で、木の幹をしっかり育てる手伝いをしていきたいと思っています。

## 「東京散歩」

S55 本田 類

東京で働き出して3年。白山通りから中山道を通って会社に行き、外堀通りから明治通りを通って遊びに行っています。都内の主要な道路の名前は全部覚えめました。勿論、移動手段は自転車です。

思えば九学時代も、新しい自転車を買ってもらったのがついつい嬉しくて、3号線を南へ走り日吉まで、さらには中央町（現在の美里町）まで熱帯夜の中、浜線バイパスを汗だくになりながら、クラスメイトの家まで遊びに行った思い出があります。課外授業が終わった後は、皆で九品寺の定食屋「なか村」で鶏チリかハンバーグを食べてから帰るといのがお決まりのパターンでした。その後も、元気が余っていたのか家にはまっすぐ帰らず、3号線を北上し清水の方まで自転車を漕いで友達を送り、行きとは違うルートで九品寺まで戻って来ていました。

東京九学会

副幹事長 高森 重視

(S32)

CLUB  
VERONA

ヴェローナ TEL:090-7736-9761

〒104-0061 東京都中央区銀座8-5-22 805銀座ビル3F

本郷 久 (S32)

新しい道を通るといふ行為は私にとって最も好きなことです。知っている会社があったり、綺麗な形の建物があったり、隠れ家のようなお店があったりと、日



右端で赤手袋の左手を差し出しているのが筆者

常生活に楽しみと考へ事へのヒントを与えてくれます。

その中でも、美味しそうな定食屋さんを見つけるといのは格別で、この10数年ですっかり習慣になってしまいました。

行った場所は iPhone アプリの "foursquare" で "チェックイン" して記録に残しておく、たまに見返しては、友人にシェアしたりしています。撮った写真はそのまま Facebook にアップされるので、すぐにみんなが "いいね" してくれて、コメントをくれるので、投稿する時はいつも気合を入れています。

快適な自転車生活には、整備も不可欠です。日曜日の夜は決まってフレームを磨き、チェーンに油をさして、空気圧を確認します。この時間もまた至福の時で、「また1週間よろしくね!」と声をかけ、その後は、愛車を着に一杯やってから寝ています。

類は友を呼ぶのか、偶然なのか、会社内に自転車好きが沢山いることを発見し、今年1月、富士スピードウェイで開催されたママチャリグランプリに出場しました。

結果は1306チーム中、55位。上司から新社員までが一つになれた瞬間でした。

それからは、会社で仕事の話の後は決まって自転車と美味しいご飯屋さんの話をするのが日課になり、仕事も早く進むようになりました。これも自転車のお陰と

思い、今日は自転車をいつもより丁寧に磨いてあげようと思います。

東京の道を走る事が、私のコミュニケーションの主役です。九学の皆様はどうですか?

追伸:

同じ S55 の同級生、各方面で活躍している小原堅輔君が最近リリースした曲「東京散歩」iTunes Music Store からダウンロードする事が出来るので、是非聴いてみて下さい。

<http://www.yukyul212.com/>

## 神奈川支部便り

支部長 (4代 S14) 荒木 傑

神奈川支部の歴史を振り返りますと、西一郎先生のご指導を頂き、平成10年4月12日に横浜マリントワーのもとに42名が集まったのが第1回で、今年で結成14年になり、月日が小川の如く流れてしまいました。

歴代支部長は

初代 浮田 剛氏 (S8), 2代 播田精二氏 (S18), 3代 齊藤征一郎 (S12) の諸先輩です。

これ迄の諸支部長のご尽力に対し深く感謝申し上げます。今後は諸支部長の歩んで来られた主旨を重要視し、次世代の後輩の皆様方に継承してまいりたいと思います。

尚 神奈川支部の幹事長に清田啓裕氏 (S44) が就任しましたのでお知らせ致します。

今後とも皆様方のご指導とご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

## KG 会便り

S56 堀川 茜

2011年11月26日、第6回秋のKG会が開催されました。今回も熊本から内村院長先生をはじめ、緒方先生や新入生や新卒者などのたくさんの方にご参加を頂きました。

今回の場所は、いつもの東京グランドホテルではなく、銀座の胡同マンダリンというレストランを借り切って行われ、いつものように親密度が高まった気がします。



建設業許可 神奈川県知事許可(般16)第50909号

株式会社 **タイセイビルド**

取締役会長 **齊藤 征一郎 (S12)**

土木・建築・リフォーム・店舗・設計施工・建物総合保守管理  
冷暖房・冷蔵庫・厨房設備・設計施工・メンテナンス

〒233-0016 横浜市長南区下永谷5丁目71番12号  
電話 **045-823-8644** (代) FAX 045-826-2197  
E-Mail: [taiseibirudo@if-n.ne.jp](mailto:taiseibirudo@if-n.ne.jp)  
携帯電話 090-3223-0330

九州学院同窓会神奈川支部

支部長 **荒木 傑 (S14)**

Masaru Araki

自宅 〒194-0212 東京都町田小山町2489-13

TEL&FAX : 042-798-1640 携帯 : 090-8223-5868

E-mail : [araki5jp@ybb.ne.jp](mailto:araki5jp@ybb.ne.jp)

私は、第1回目から今回まですべて参加をしていますが、今回とても嬉しかったのが念願のくまモンに会えたことです。

今回くまモンを特別ゲストとして呼んでおり、ビックリされた方もいらしたかと思います。または知らないという方もいらっしゃるかもしれません。今や熊本では知らない人はいないというほど全国にまで露出して、ゆるキャラグランプリを獲得し、本当に旬のキャラクターだったので、私も興奮せずにはいられませんでした。出てきた瞬間くまモンに近付き、写真と一緒にとりました。その一枚がこれです。癒されました。

また、くまモン体操を踊ってくれて、会をととても盛り上げてくれました。ステージで体操をして、みなさん盛り上がっている風景が下の写真です。



くまモンといっしょに!

くまモンのことばかり書いてしまいましたが、みなさんには今回も楽しんで頂けたようで、次回もその次の年も上京してくる新入生のために続けていきたいと思っています。



**編集部より：**今号の発行は春、本校の新世紀を記念するイースター号としました。今回も、学院長、本会会長初め、広い卒業年度に亘る会員から寄稿を頂けて、本校、各年代会員を結ぶ絆の役目を果たし得たかと自負して喜んでおります。ご協力有難う御座いました。

本号原稿締め切り日の翌日は、第84選抜高校野球大会 2日目九州学院対女満別高校との試合。編集子も約一名甲子園に応援に行きました。試合開始は9時、8時前甲子園駅に降り立つと、高速道路下に、九州学院の幟が立ち、関西九学会による応援者受付準備も整い、熊本から院長、先生方、OB、OG選手ご家族ら多数がお出で、既に必勝の意気が上がっております。

熊商、熊工OBの応援、協力も嬉しい限りです。



九学健児靈育の活ける真清水流れては・・・

試合は勝って甲子園の空高く校旗が揚がり、校歌斉唱 幸せでした。

28日の対大阪桐蔭高校の2回戦、惜しいところでしたが、unlucky とも言いたい出来ごと直後に食らった逆転にも、何らの動揺も見せず沈着果敢に戦う姿に、卓抜した技術もさることながら、九州学院の人格教育の成果を見た気がします。

本誌春号は、例年 総会案内に同封していましたが今回、総会日程が諸般の事情でやや遅くなるため、単独発送となりました。お楽しみ頂ければ幸いです。

S6 尾上 賢、S30 高木宏一、S32 本郷 久

翻 訳

竹熊 誠 (S15)

TAKEKUMA, Makoto

〒860-0845 熊本市上通町4-10 とらやビル 402号

TEL・FAX (096) 354-9575

E-mail: mtakekuma@ss.em-net.ne.jp



We wish OOptions!

株式会社 オカモト印刷

岡本 明 (S34)

〒168-0062 東京都杉並区方南1-8-17 Tel 03-5300-0722 Fax 03-5300-0723